

TOPICS

2017年度 高校生講座報告

広報誌編集委員会

高等学校・中学校の冬休みの期間に合わせて、理学部高校生講座を今年度も開催した（開催日・講師は表を参照）。これは、理学の楽しさを伝える活動の一環として、高校生を対象（中学生も参加可）に、理学部教員が講義を行うという企画である。今回も盛況で、各日150人程の生徒

の参加があった。わかりやすい言葉で講師が語る、それぞれの分野の研究の魅力や面白さを、参加者たちは熱心に聞き入っていた。また、講義が終了すると、講師に質問をする長蛇の列ができていた。多忙な中、素晴らしい講義をしてくださった講師のみなさまに心より感謝申し上げたい。



講師：地球惑星科学専攻 安藤亮輔 准教授

<東京大学理学部高校生講座 開催日・講師一覧>

冬休み講座：2017年12月26日(火)

生物学科 野崎久義 准教授
地球惑星環境学科 安藤亮輔 准教授
天文学科 嶋作一大 准教授

2017年12月27日(水)

化学科 廣瀬 靖 准教授
物理学科 横山将志 准教授
情報科学科 須田礼仁 教授



講師：生物科学専攻野崎久義准教授



質問にならぶ参加者（講師：物理学専攻横山将志准教授）

眞鍋淑郎博士の2018年クラフォード賞受賞が決まりました。

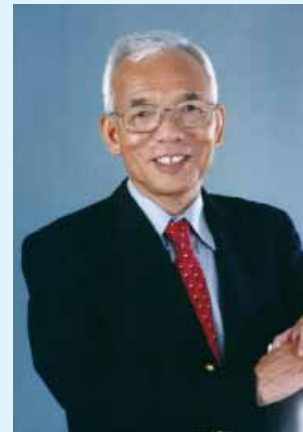
東塚 知己 (地球惑星科学専攻 准教授)

1 953年に理学部を卒業され、1958年に理学系研究科で博士(理学)を取得された米国プリンストン大学の眞鍋淑郎博士が、2018年クラフォード賞(The Crafoord Prize)に選ばれました。

眞鍋淑郎博士は、学位取得後、米国に渡られ、米国海洋大気庁・地球流体力学研究所にて気候研究に従事してこられました。その間、世界で初めて大気海洋結合大循環モデルを開発し、大気微量ガスの1つである二酸化炭素の濃度の上昇が、気候に与える影響を世界に先駆けて明らかにするなど、地球温暖化研究や気候研究の根幹をなす研究成果を数多くあげてこられました。眞鍋淑郎博士の研究は、地球の複雑な気候シス

テムを調べるために必要な今日の気候モデルの基礎となっています。

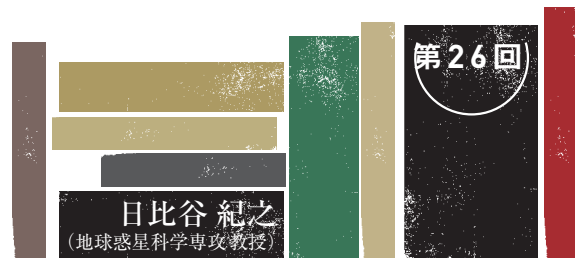
クラフォード賞は、天文学/数学、地球科学、生物科学、多発性関節炎に関する研究において傑出した研究成果を挙げられた研究者に贈られます。2018年は、地球の気候システムにおける大気微量ガスの役割の理解への貢献が評価され、眞鍋淑郎博士とマサチューセッツ工科大学(Massachusetts Institute of Technology)のソロモン(Susan Solomon)博士が、同時受賞されることになりました。2018年5月24日にスウェーデン王立科学アカデミーにて授賞式が行われることになっています。眞鍋淑郎博士のご受賞に心よりお祝い申し上げます。



眞鍋 淑郎 博士

理学の本棚

「海の温暖化」 — 変わりゆく海と人間活動の影響 —



皆さんにとって海とは何だろうか。はるか昔、生命が誕生したころから現在に至るまで、私たちは常に海とともに暮らしてきた。しかしながら、共存していると思っていたのは人類だけで、私たちの活動が海のメカニズムを変えつつあると考えたことはあるだろうか？その変化が、私たちの生活にも悪影響を及ぼす可能性があるとしたら？

本書は、2014年に刊行された「地球温暖化」(日本気象学会地球環境問題委員会編、朝倉書店)の姉妹書として、日本海洋学会によって編集されたものである。海洋学会に所属する専門家が地球温暖化と海との関係について、水温や海流などの海の物理的特性や物質循環、海洋酸性化、海洋生態系や水産に対する影響だけでなく、過去の気候変動における海の役割や、現在の海洋環境問題などをさまざまな角度から分かりやすく解説している。少し専門的な内容ではあるが、市民生活に密接に関係した現象を取り上げ、図や写真を用いて視覚的にとらえやすく配慮するなど、海洋

を専門にする読者でなくても興味深く読めるようになって

いる。
温暖化は、豪雨や猛暑、氷河の崩壊などの目に見える現象だけでなく、海の中でも静かに、着実に進みつつある。しかし、本書は決して悲観的な未来を予測するものではない。ぜひ一度、本書を紐解いて海のさまざまな現象を学び、現状を知り、あらためて海と向き合っていただきたい。人類は海無しには生きていけないのだから。



日本海洋学会 編
「海の温暖化」
朝倉書店 (2017年出版)
ISBN 978-4-254-16130-4